

もみじ

-広島県山岳・スポーツクライミング連盟会報-



一般社団法人 広島県山岳・スポーツクライミング連盟

〒733-0011 広島市西区横川町2丁目4-17

電話・FAX (082) 296-5597

E-Mail : hgakuren@lime.ocn.ne.jp

URL : <http://hiroshima-gakuren.or.jp>

郵便振替口座 01380-6-37958

題字デザイン 今村みすほ

編集 西部伸也

本号内容

- 個人会員「ありんこチーム」活動（9/26～27 高知県石立山）報告
- クライミングスクール（10/4 三倉岳）報告
- 山岳SCセミナー清水正弘講演会（10/10 広島市西区民文化センター）報告
- 登山教室（2年 10/10～11 砥石郷山～恐羅漢山～天杉山～高岳、1年 10/18 高鉢山～安駄山～花茎山）報告
- 中国高校登山大会（10/23～25 山口県秋吉台）報告
- 指導部スタッフ研修（10/25 三倉岳）報告
- 全員協議会（10/28 広島市西区民文化センター）報告
- 岳連短信

1. 個人会員「ありんこチーム」活動報告

（個人会員 平山 綾乃）

期日：9月 26日（土）～27日（日）

場所：高知県石立山

参加者：岡谷・金本・小玉・金村・神崎・平山（6名）

時間：9時間

距離：7.5km（登り 1241m、下り 1255m）

天気：曇りのち晴れ（途中、虹あり）

急登、急下りのなかなか手強いお山でありました。私は、登りがとても辛かったです。。。

＜記録：金本＞

石立山（四国一危険で急な山・・・） 四国・高知
世界でもココにしか生えてないと言われている（現在

石立山以外では発見されていない）イシタテクサタチバナ。今日はシコクブシ（トリカブト）の群生地を楽しむ・・・県・SC連ありんこで。

★1日目

J R ⑦北口に 8:00 集合・・瀬戸大橋・・高知ひろめ市場（カツオのたたきで昼）・・香美市（食量調達）・・別府温泉・・別府渓谷①で蜜を避けソロで幕営

★2日目

別府渓谷②5:45・・もみじ茶屋（閉）・・赤い吊橋（計画書をポストに）・・遊歩道入口・登山口・・いきなり転落防止用柵の急なジグザグ階段・・石立山標識・・ジグザグの急登・ガレ場にフィックス・・尾根に出る石立山標識・・石立山標識（尾根から竜頭谷にトラバースして下る）・・6:41 竜頭谷（此處で小休止）6:51・・ザレ場にフィックス（前より安定して歩き易かった）・・ジグザグの急登のフィックス・・別府峡③が真下に・・7:45 P 1 1 8 3 7:53・・石灰岩の岩稜・・保護ネット・・隣の尾根北西方向に竜頭山（1264.4m）・・8:50 P 1 4 7 2・・8:52 小休止 9:02・・9:12 シカの食害から希少植物保護するネット・・近年はシカの食害がひどいようだ・・9:22 鹿の食べない希少種イシタテクサタチバナ・・シカの食害から希少植物保護するネット・・シコクブシ（トリカブト）の群生地が・・西峰まで緩い登り・・保護ネット・・9:40 西峰・・緩々歩きで・・10:02 石立神社の祠・・10:04 石立山二等三角点 点名：石立山 1707.7m 眺望は良い（保護ネットで笹が少し回復）・・昼餉 10:26・・10:48 日和田・別府分岐（日和田コースとの分岐から別府へ尾根をコースへ入る。なぜか「別府」が通せんぼうの木が）・・11:00 県境から南西尾根に・・南西尾根

は、昔の登山ルートだったそうだ・・白地に赤のテープが導く尾根ルート・・11:25 石灰岩が露出する痩せ尾根(小休憩)11:30・・11:38 P 1 3 9 2・・このコースも初心者には緊張する岩・ガレ場有り・・12:13 P 1 2 5 0 休憩・・12:26 P 1 1 8 1・・植林の中の少し広い尾根に・・ジグザグのガレの急な下り・・歩き良いジグザグの下り・・13:31 消えかけた駐車場標識・・13:50 谷もないのに岸壁から噴出の滝(石灰岩に浸透した水が地中を通って岩の割れ目から流出)が妙見滝・・13:53 滝横のフィクス・・ジグザグの下り(後半の下り少し時間が経過)・・14:37 別府峡第2P(壁から出る冷たい水で一息)・・14:39 檻干の熊が出迎えて・・14:42 別府渓谷P・・べふ峡温泉・・帰路

(2日目)



<写真：平山・金村>

(1日目)



2. クライミングスクール報告

（指導部 塩田 徹）

第3回 10/4(日)

山域：三倉岳

人数：受講生 6名

2020年度第3回クライミングスクールは三倉岳ひとけたエリアをトップロープ、午後から元祖池本クラック、門前払いをトップロープでカムをセットしながら登りました。

（感想文）

『クライミングは楽しい』

（受講生 佐々木 憲治）

ここ数年ワンディロング登山を目指して数々のイベントにトレーニングを兼ねてエントリーし出場してきました。しかし最終目標のイベントの抽選に三度落選し抽選では無く選択だと分かったことをきっかけにクライミング再開を決めましたが、大昔にかじったことのあるクライミングをするにあたり次の通り戸惑を感じました。

- ① ロッククライミングが細分化されクリーンクライミングがトラッドクライミングと呼ばれている。
トラッド？伝統的クライミング これってそんなに古いスタイルなの？
- ② ナチュラルプロテクションギアの一種をフレンズと言わずに皆さんカムと言う
- ③ ビレイディバイスがエイト環からATCに・・・ATCの正しい使い方は？
- ④ 登る時はハーネスのビレイループの環付ビナをいちいち外すのだ？

これは浦島太郎状態、これではいけないと思いスクールに申し込んだ次第です。

今回の講習はレジェンド両条さんをお迎えしての講習となった。40年もクライミングを続け数々のハードフリールート（表現が古い）を開拓し、いまだに現役、凄いの一言です。

午前8時30分駐車場に集合し岩場に移動。途中優しい講師陣の一言で旧Aフェース下で小休憩をとり8合目まで移動。

まずはひとけたエリヤで5.5～5.9の4本のルートを生徒6名が3グループに分かれトップロープでクラ

イミングをしました。

過去2回共各講師にさんざんダメ出しされたATCのビレーさばき、初めて新山講師に褒められました。急にスムーズに出来るようになった理由は自分でもわかりませんが・・・。次回もスムーズに出来る様、誰もいないところでシャドウレーニングします。

午後からは池本クラック5.8と門前払い5.7で講師がクラックにカムをセットしながらリードクライミング。そしてロワーダウンしながらカムをセットした部分にチョークでマーキングした後にカムを取り外しました。

その後生徒がカムをぶら下げたギアラックを肩に掛けマーキング部にカムをセットしながらトップロープで登りました。

門前払い1個目は大型サイズの41/2、2個目はゴールド色、3個目以降は見えんじやないか・・・と講師がセットしたカムをカンニング。しかし自分が登ると2個目のセットでフレア一気味のクラックに4枚のカム内の1枚安定が悪く、このセットでリードしてはダメだなと思いつつ登りましたがセット位置はマーキング通り、サイズは色でカンニング済み。講師はどの様にカムをセットしたのか疑問の残るクライムとなりました。

終了時に取り付きで両条講師から次の通りコメントをいただきました。

- ① カムは身長の高さごとにセット
- ② やばい所（落ちるかもしれない）は固め打ち（多くセットする）
- ③ グランドフォールしないように出だしは早め且つ確実にセットする
- ④ 決まり事は無く人によってはセットする位置が違う

全ての講習が終わり16時半頃駐車場に戻り総括として両条講師からのコメント「皆さん手の方ばかり気にして登っている。登る前に目の高さで足を置く位置を見ておく。分からなくなると思えば登る前にチョークで足を置く位置にマーキングしておく」で講習は終了しました。

最後に廿日市方面の道中トラック横転事故による渋滞と通行止めで大きく迂回を余儀なくされ帰宅さ

れた皆々様方クライミング講習、運転ともに大変お疲れ様でした。

（受講生 堂前 加代）

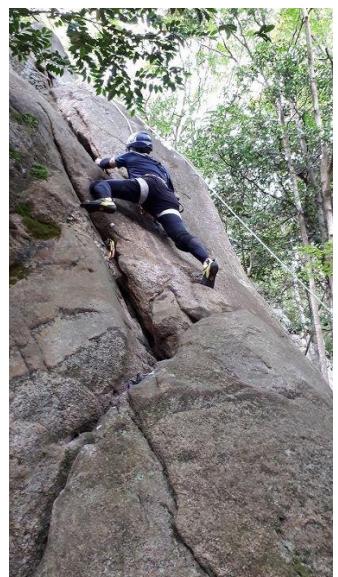
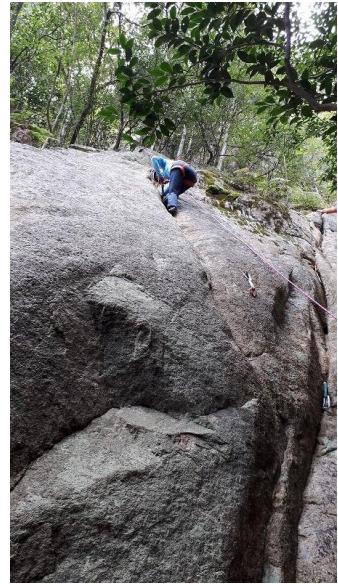
5月から一旦中止になりましたが、9月からコロナウィルス対策のもと、再開されました。ということで、今年度3回目のクライミングスクールとなります。

場所は8合目でアプローチがきつい。気温はそんなに高くないと思ったのに、割と汗が出て、ぜえぜえ言いながら登りました。内容は、2名1組に分かれ、講師がセットしてくださったトップロープで練習。午前はひとけたエリアを、午後からは池本クラックと門前払いでのカムのセットをしながら登りました。ひとけたエリヤの.5で講師が終了点の残置カラビナの調子が悪いのを回収し、良いものに付け替えられていきました。おかげで快適なゲレンデとなっています。

ビレイヤーはロープがクライマーの邪魔にならないよう位置を移動したりする事、クライマーが終了点についてからダウンする時はテンションをしてきちんと止まるか確認する。それを確認するとクライマーが安心できる事、クライマーとビレイヤーが互いに声掛けしてからダウンを開始する事、カムのギアスリングへのかけ方など。慣れてきたりすると面倒だとかで薄れていきそうな基本を改めて言葉で教わりました。毎回、基本的な大事な事を繰り返し言い続けて下さる事に、ありがとうございます。

私はクライミングスクール通算5年目でもはや古株となりました。これまで余裕がなかったのですが、今回は生意気にも少し余裕がでてきて講師の指導がようやく理解できるようになりました。やっと追いつき始めた感じです。一生離陸できないと思っていたルートも離陸の心配はしなくてすむようになりました。今はスクールと別に三倉岳で練習する機会がありますが、さぼればすぐ元にもどるので、これからもこりずに繰り返しの練習が必要だと考えています。

生活の中でいつも頭の片隅にあるソーシャルディスタンス。そのためかスクールでもお互い距離を感じるのは否めないような気がします。いろいろ配慮が必要な状況の中で行われているスクールもあと残り2回、有意義に過ごしたいと思います。ご指導よろしくお願いします。



（写真提供 塩田）

3. 山岳SCセミナー清水正弘講演会報告

（理事長・国際部 豊田 和司）

10月10日、第28回目となる山岳・SCセミナーは、健康ツーリズム研究所代表の清水正弘氏を講師にお招きし「山岳辺境というフィールドの魅力」と題して開催された。清水氏は、1960年兵庫県生まれ、健康と里山歩き、癒し旅のプロとして国内外での「山岳辺境・養生プログラム」を企画監修し同行もされている。

実は、当セミナーは、28年前に清水氏が前職であるアルパインツアーサービス広島支店長時代に、当時広島県山岳連盟の国際部長だった兼森氏と二人で企画し「山岳辺境文化セミナー」として立ち上げられたものである。講演の冒頭、その経緯も話され「辺境」に対する思い入れの深さも語っていただいた。（二年前から、連盟の名称変更に伴い、セミナーの名称も変更されている）

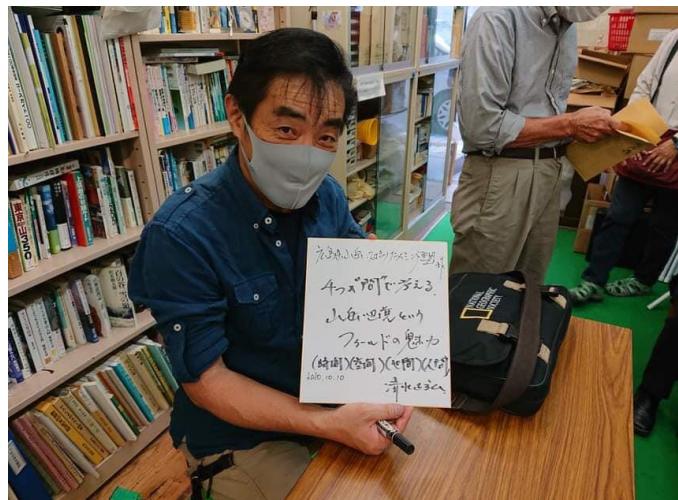
清水氏は世界中を旅行されており、豊富な映像を駆使してその貴重な経験を話していただいた。ジープでゴビ砂漠を走り、砂嵐に遭遇する場面と、飛行機で北極点に降下する場面を、視覚がなくなり、自我が消失する瞬間として、それを禪僧の悟りとの関連で話されたのが特に印象深かった。

私が当セミナーの企画担当に携わるようになったのは、2001年の椎名誠氏からであるが、毎回講師にお招きしているのは、「行動する思想家」とでも呼ぶべき方たちだ。清水正弘氏も、まさにその称号にふさわしい素晴らしい方であったと思っている。尚、今回の講演の模様は、YouTubeで見ることができます。

（補足）

清水さんのYouTubeチャンネル名は『トラベルセラピスト・清水正弘』で、このたびの講演会動画（『山岳辺境文化セミナー 講師：清水正弘』）はvol01から～vol06 最終の6編があり、vol01～05はいずれも20分前後、vol06 最終は約8分の動画です。YouTubeで「トラベルセラピスト・清水正弘」を検索してみてください。

また、清水正弘さんのFacebook投稿にもYouTube動画のリンクが貼られています。



4. 登山教室報告

（指導部長 森本 覚）

第2回2年生 10/10(土)～11(日)

登山形態：テント泊山行

山域：砥石郷山～恐羅漢山～天杉山～高岳

人数：7名（スタッフ含）

今回は各自ツエルト泊という事で樽床ダムから恐羅漢山を周回してきました。生憎、砥石郷の登りで雨が降り出し山頂付近では本降りに。キャンプ場につくと既にテントが多く張られていきました。水はけの悪い箇所しか空きがなく体調不良のメンバーもいたのでケビン泊に変更しました。（森本）

『10月の山行（岩稜クラス）を終えて』

（登山教室2年生 高田 正剛）

今回は新型コロナウィルスの影響で中止になっていた登山教室が岩稜クラスとして再開されてから、最初の泊り山行でした。昨年までのテント泊装備と違うところは、補助ロープが個人装備に追加されたこと、そしてクッカーや食料など皆で分担していた共同装備を個人装備としなければならなくなってしまったことです。前日にパッキングしたザックを背負ったのですが、私達の年度は参加者が例年と比べて少ないために一人当たりの共同装備の分担量が多くなっていたため、共同装備の個人装備化等の影響をあまり感じませんでした（あくまでも個人の感想です。）。

泊りはツエルトによるビバーク訓練の予定でしたが、恐羅漢エコロジーキャンプ場についていた時は既にテントサイトが満杯であり、雨も強くなってきたため、急遽コテージ泊に変更になりました。ビバーク訓練ができなかったのは残念でしたが、コテージのロフトを使い、高さ2mぐらいですが空中懸垂下降を経験できましたので、来月の三倉岳・経小屋山残念尾根山行に向けて良い練習になったと思います。

2日目は、恐羅漢エコロジーキャンプ場から恐羅漢山、台所原、天杉山経由で高岳に登り、スタートした三段峡聖湖口駐車場に戻るルートを歩きました。台所原までは登山教室で何度か歩いていたのですが、台所原から先は受講生にとって未踏のルートでした。私は、台所原から先導したのですが、出発してすぐの分岐で

道を間違えそうになりました。すぐ後ろを歩いていた山根さんが気づいて声をかけてくれ、すぐに修正することができたのですが、初日の中ノ甲林道から奥三段峡と田代川出会いまでの藪漕ぎルートはほぼ読図イメージできた地形どおりであったため、2日目の初っ端から間違えてしまったことは少しショックで、読図についてはまだまだ経験が必要であると感じました。

読図についてはまだまだ課題があることがわかりましたが、今回の山行は、私としては今までの登山教室で一番うまくいったのではないかと思っています。1年目のテント泊山行では、膝の痛みで仲間やスタッフの方々に装備を分担してもらい、2日目の山行をリタイアすることもありました。また、先月のハイキングクラスでは北阿武山の急な下りで膝回りの筋肉が痛くなり、翌日はひどい筋肉痛で階段の下りに苦労したのですが、今回は山行中に膝が痛くなることがなく、翌日もひどい筋肉痛に悩まされることはありませんでした。

来月は、重い装備から解放され、楽しい岩稜歩きが始まります。とても楽しみです。受講生及びスタッフの皆様、よろしくお願いします。





(写真提供 森本 覚)

第5回1年生 10/18(日)

登山形態：日帰り山行

山域：高鉢山～安駄山～花茎山

人数：12名（スタッフ含）

今回も歩行速度を意識した計画をしました。1、2年合同で班に分かれて行動しました。読図や歩行技術が必要な箇所もありましたが、計画した時間内で予定のルートを歩く事ができました。（森本）

（感想文）

（登山教室1年 阿部 幸司）

前の晩から色々準備して朝4時に起きて早めに広島駅に行くともう森本L、山根先輩が来ておられました。山根先輩のザックをさげてみたら持ち上がりませんでした。まるで富士山の強力の荷物みたいでした。何十年ぶりかの芸備線で珍しくて窓の外ばかりを見てました。下深川の駅が高陽団地とつながってるのも初めて知りました。狩留家駅で全員揃って出発です。踏切を渡り民家の中を抜けて林道を横切り登山口に到着、これから2時間の直登りと思うとうんざりです。でも気候が良いせいか予定より早くあがれてビックリです。真夏の耐熱訓練のお蔭と感謝です。高鉢山頂上には行かずに東峰で戻り高鉢槍に向かう。一時間で高鉢槍に到着。素晴らしい眺望に感動！白木山山系が良く見える。長い稜線にため息、あんな所歩いたら死ぬわ！普通のハイキングならここから戻って下山すべき。ここから下りて登って登って下りて中三田分岐まで一時間半、急登を三十分で安駄山山頂。ここまで

五時間、本日ルートの中間点、予定通りであった。ここから下りて二十分钟で鳥井原分岐、普通はここから下りて上三田駅に行くべき。今回は直進して人の踏み跡の無い尾根を花茎山まで二時間。道もない、標識もないで、ここが一番しんどかった。自分の現在位置が分からないので頭がもうろうとしてきた。下って登って花茎山到着かと思ったらまだ無名峰だった。下って急登でやっと花茎山到着。ここは小さな看板が有ったのでやっと現在位置が分かった。本来であれば鳥井原分岐で608峰にコンパス角度を合せて現在位置を確認しながら次を合せてというように進むべきであった。これを怠ったため現在位置が分からなくなり五里霧中となった。単独登山であれば遭難してもおかしくない。花茎山から本日のメインの激下り。まさかの道なき急坂を下るのにビックリ。真直ぐ難場歩きで下るのは無理なので、直滑降ではなくて斜滑降で行くことに。斜面を横切りながら木につかまっての繰り返しで何とか312分岐に到着。みなさま順調に下りてこられたので安心しました。前回特訓の成果が出たか？ここからゴロタ石の足場の悪い中を林道口まで、それから林道を上三田駅までと急ぎ足で行き無事、広島行きの列車に乗れました。全員怪我無く完走出来てメンバー、スタッフの皆様に感謝です。お疲れ様でした。以上





(写真提供 森本)



5. 中国高校登山大会報告

(西部)

10月23日（金）～25日（日）に山口県秋吉台で第60回中国高等学校登山大会が開催され、広島県からは男子広島学院・女子基町が出場し、**広島学院**が見事優勝、**基町**が5位という結果でした。

(大会成績)

男子①広島学院 99.1 ②下松工業 98.6 ③防府 96.1
 ④岡山操山 94.2 ⑤出雲 88.1 ⑥境港総合技術 86.1
 女子①山口 95.8 ②米子東 91.4 ③松江北 90.7
 ④岡山操山 89.2 ⑤基町 86.9

以下に大会事務局の朝山清貴先生（防府高校）のお礼文と広島学院中野先生と朝山先生撮影の写真を掲載します。

『第60回中国高等学校登山大会関係者の方々へ』

今大会の事務局の朝山です。この度の中国高等学校登山大会におきましては大変お世話になりました。

今大会は、コロナ渦の中、大会参加パーティ数の縮小や施設宿泊、検温などいつもと雰囲気の違う中国大会となりました。

当初は「本当に開催できるのか。」と不安でいっぱいでしたが、県内外の先生方からさまざま、知恵を頂いてなんとか大会を開催することが出来ました。私の準備不足で皆様に、ご迷惑をおかけした場面もありましたが、温かいお言葉やご協力もあり何とか大会を無事に終えることが出来ました。（約二週間後まで気が抜けませんが…）感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

（山口県高体連登山専門部委員長 朝山 清貴）



登山の様子と設営・炊事



閉会式・表彰式と広島学院選手

(広島学院選手感想文)

(2年 植木 豪)

新型コロナウイルス感染症の影響により、県総体やインターハイが中止される中行われた今回の中国大会。僕たちが今年出場できる大会の中で一番大きく、その大会で優勝でき、とても嬉しく思います。僕にとって今回の大会はA隊として出る最後の大会で、今までの練習や読図などの失敗の経験が生かされたと感じました。また、登山競技は4人の団結力が大事だと考えています。今回の優勝は4人みんなで協力、信頼し合えたことが大きかったと思います。メンバーの3人には感謝しかありません。

(2年 河本 昇磨)

今回の中国大会は、コロナ禍で主要な大会が中止になる中開催された貴重な大会でした。大会前には下見や準備の時間が続き、大会に臨めることを嬉しく思っていました。2泊3日の大会期間、山口県秋吉台の桂

木山、真名々岳などでの登山行動、炊事や設営審査、ペーパーテストに取り組み、優勝することが出来ました。登山競技は4人という比較的少人数での団体種目のため、メンバー内の雰囲気が非常に大切だと思います。その点今回は、各所で集中しつつも大会を楽しむことができました。交歓会がなかったのは寂しいですが、とても充実した時間を過ごせました。ありがとうございました。

(1年 村田 凜斗)

今年は夏の大会がなかったため、今回の大会が僕にとって初めての登山大会でした。やはり話で聞くのと実際に経験するのとでは随分違い、今回このような状況下であっても大会に参加し経験できたのは、得られたものが多かったです。今回の経験を活かして、今後活動していくこうと思っています。

このコロナ禍で、これまでとは違う形で行われた大会ではありましたが、多くの方の助けで無事終えることができ、本当に感謝しています。チームの先輩方には特に、本当に色々なことを教わりました。他の先輩や同輩は、準備や練習で助けてくれました。顧問の先生方は、様々な面でサポートしてくださいました。母は遠距離の下見に連れて行ってくれました。本当に沢山の人のおかげで今回の大会に臨めたことに感謝しています。ありがとうございました。

6. 指導部スタッフ研修報告

(指導部長 森本 覚)

指導部スタッフ研修会「応急処置と搬送について」

近年三倉岳でも滑落事故が発生しています。遭難対策委員会としては、無積雪期のレスキュー研修会を企画していましたが、コロナ禍の為に中止を決定しました。指導部としては2年間休止していたクライミングスクールを今年度はなんとか実施している状況ですので、この機会に指導部スタッフによる研修という形で実施しました。

目的：源助崩れでクライミングスクール中にヘリを呼ぶほどの怪我ではないが足の負傷で自力で下山できない場合にどう対応するか？

日時：10月25日（日） 8:30～14:30

講習場所：三倉岳源助崩れ基部

参加者：指導部スタッフ及びスタッフ候補者計15名

装備：クライミングや登山で使用しているモノ

研修内容：

午前

○背負搬送各種実施、検討

○ロアーダウンの確保各種及び介助の実施、検討

午後

○総合演習（源助崩れ基部から登山道に合流するまでの間の搬送）の実施、検討

○意見交換

【実施者の感想】

- ・背負った時要救助者が横にずれると重く感じるので、要救助者の固定が重要だと感じた。
- ・急斜面を背負って降りるのは下が見えないので周りのフォローは重要だと思った。
- ・背負う感触はザックの性能で差がでると思った。
- ・トラバースの時はフィックスロープが有効だと感じた。ロープの予備があれば先行してフィックスを張るチームが居れば良いと思った。
- ・急斜面での介助者は余裕が無くセルフビレイが取れなかった。先行部隊がセルフビレイができる様にスリングをセットしておけば良かったと思った。
- ・介助の時メインロープの山側に立てない場合も有った。ロープで振られると思った。
- ・搬送者が動きだすと追い越しはできないので交代の時に後ろの人は先まわりする事が重要だと思った。
- ・狭い場所は追い越せないので、物資も含めて前の人には渡して隨時ずれる方がスムーズに進めると思った。
- ・フリーになった人が二次災害に遭わない様に、みんなの動きをイメージして事前に打ち合わせしないといけないと思った。
- ・みんなが共通のイメージがもてないとスムーズに動けないので今回の様な演習をしてシミュレーションしておく事が重要だと思った。
- ・実際にある状況だと思うので演習が実施できて良かった。

- ・怪我の手当て者と搬送者の役割を分けて対応する事で時間の短縮に繋がると思った。
- ・自分の役割が不明瞭だった。もう少し事前にイメージできれば良かった。
- ・今回の搬送が最低何人で出来るか検討しておく必要があると思った。
- ・中心はあくまで要救助者なので要救助者に対しての声掛けが重要だと思った。
- ・トラブルが有った時の対応には時間がかかるので、山は早出早帰が基本だと思った。ヘリも日没までの回収が間にあう時間でないと飛んでくれない。

【まとめ】

時間短縮の為には、応急処置班、搬送・梱包班、確保班、誘導班が必要だと感じました。今回の研修では搬送梱包班と確保班の部分しか事前検討を実施できなかったのですが、誘導班が明確に誘導できるかどうかが時間短縮にも二次災害防止にも繋がっていくと思いました。応急処置をすると同時に搬送梱包の準備にかかり、それと同時に搬送ルートの確認に先行部隊が走り、確保の支点を構築したり、フィックスロープを張ったりする事前準備が出来ているかどうかで、安全性も増し時間短縮に繋がると思いました。その部分の事前検討をせずに総合演習を実施したので、ルートの誘導他事前準備の不備が浮き彫りになった様な気がします。確かに全てのルートの事前準備は出来ないと思われますが、誘導者が搬送者より常に先行して情報提供する事は重要でしたので、要救助者の搬送準備が整ったら慌てて直ぐに出発！ではなくて、先行した誘導班が戻って来て準備OK！で出発という感じの「ひと呼吸入れる」冷静さが必要だと思いました。全員が自分の役割をしっかりとシミュレーションできるように訓練している事が大前提ですので、今回の研修で搬送の問題点が少しでも見つかった事と、その大変さを実感する事で何より事故を起さない事が一番だという事を再認識できたことが収穫だと思いました。

（次頁写真提供 森本）



7. 全員協議会報告

（事務局長 西部 伸也）

日時 10月28日(水) 19:00～20:35

場所 広島市西区区民文化センター

出席者 25名

会議内容

1 会長あいさつ

2 議題

(1) 比婆山国際スカイランの中止と今後の見通し

今年の28回大会はコロナのために中止した。

延期の理由：①コロナの状況が見通せない。

②『比婆の森』が破産して県民の森管理者が目下不在となっている。

来年の29回大会については「秋に延期」のハガキを昨年の27回大会参加者に送る予定。

(2) 創立80周年事業

① 一回目の打合せ議事録確認

記念誌発刊・記念登山（ブータントレッキング）・写真等展示会・祝賀会の事業を行い、記念講演会は実施しない。

来年1月に予定されていた祝賀会は翌年（2022年）1月に延期し、記念誌もその際に配布する。

展示会は来年9月、記念登山は来年10月頃に実施予定。

② ブータントレッキングについて

スライド上映で次の各項目を説明：

ブータンの位置（ネパールの東方）・行き方（バンコク経由）・玄関口（ティンプー）・面積と人口（九州と同じくらいで76.5万人）・気候（南北で極端）・ブー

タンヒマラヤ(7000m峰が20座)・観光やトレッキングのスタイル(すべて現地スタッフ付きで、テント泊、荷物は運んでもらえる、往復飛行機と現地1週間で50万円くらい)・代表的なコース(ジョモラリトレックが一番いいか)

(3) 写真展

今年は8/25～30に実施し(会場は昨年同様NHKギャラリー)、16名・40点の作品出展があり、延べ来場者は181人であった。昨年(9/17～22に実施)の305人と比較すると少なくはあったが、コロナ禍の最中・残暑厳しい時期の開催であったことを考えると、多くの方々に来場頂いた。

来場者アンケートで感想や気づきも書いてもらつたが、おおむね好評であった。会計については、8,600円ほどの余剰金がでたので、連盟会計に入れた。来年は80周年記念ともなるので、早めに準備を始め、多くの会員の積極的な出展応募を期待したい。

(4) 県民ハイキングの再開

コロナのために年度当初予定していた6～11月は中止となつたが、12/6の宮島からのスタート予定。宮島では「歴史解説」の発展・完成版を披露したい。

以降の開催は、1/17 安芸小富士～下高山（担当は安藤縦走会、実施の最終判断は11/9の同会会議で）、2/23 熊ヶ峰（担当は福山山岳会で実施の方向）、3/21 宗箇山（担当はJACで実施の方向、茶臼山までだと長いのでコースを検討中）の予定。

(5) その他（賛助会員募集に対する匿名の質問状への回答）

連盟会計の収支改善策として、事務局スタッフ体制の見直し・各種旅費や交際費援助の見直し・事務局印刷費の削減・各部事業からの連盟への繰入金見直しといった方策を講じたが、比婆山スカイランや登山教室等の各種行事の中止・中断により、100万円を超える赤字が予想されたため、賛助会員のお願いをして50万円ほどの補填することとして、55万円の赤字での予算案が総会で承認された。

その後、賛助会員は予定よりも多く集まり、政府のコロナ対策経済支援の持続化給付金や家賃補助も受けられる見通しである。

とはいへ、継続的な収支改善のためには、スカイランや県民ハイキングの活性化を講じなければならぬのは執行部としても承知しており、そのための努力もしている。（県民ハイキングには加盟団体相互の親睦という意義もある。）

また、賛助会員については、理事の全員が協力し、いくつかの加盟団体からも協力してもらえた。

【出席者からの意見】

匿名の質問に対して回答する必要があるのか？

3 各部報告

- ① 事務局：事務局員の削減を実施
- ② 指導部：クライミングスクールが9月に再スタートしたがコロナで参加者が縮小。登山教室1年は6月から、2年は9月から、やはり縮小した人数・形で実施している。夏山リーダー講習会は中止。無雪期レスキューも中止（但しスタッフ研修を実施）。2月の冬山技術研修会（大山）は実施予定。11月のJMSCA 登攀研修会（福山）は各参加者ビジネスホテル泊で実施予定。11月の高体連の安全講習も実施する。
- ③ 普及部：自然保護研修会が実施できず。自然保護研修会のアンケート集計中（→11/4の部会で討議）。登山道整備などが出来てない。
- ④ 國際部：山岳辺境セミナーを実施（参加者65名。収益も上がった。アルパインツアーガ大阪から撤退し特別協賛は広島登山研究所・ひろでん中国新聞旅行のみとなった（協賛はアシーズ）。来年も地元の講師でと考えている）
- ⑤ 県東部：10/12 福山山岳会・新市・福山市役所の合同で里山ハイキングを実施
- ⑥ 競技部：鹿児島国体は3年後の2023年に延期（それ以降の開催県が1年ずつ繰り下がる）。選手強化はコロナ対策をして手探りスタート
- ⑦ 高体連（後日の補足）：10/23～25に山口県秋吉台で中国大会が開催され、広島県勢が男子の広島学院が優勝、女子の基町が5位。今年はコロナのため各県男女1校ずつ・地元山口のみ2校の参加

4 出席者近況報告（加盟団体順）

- ① 広島山岳会：例会山行を徐々に実施しており、現

- 在は毎週実施。新しい会員が徐々に積極的になってきた。ただ、高齢化もしているので、勧誘の広報が必要。
- ② 広島山稜会：コロナ対策を実施しながら山行を実施（少人数）。高齢化でハードな山行はできないが、恐羅漢山中心の登山道整備を細々としている。会のブログで報告している。内黒峠～古屋敷の旧道が復活した。
- ③ 可部山岳会：月二回は会として実施している。
- ④ 福山山岳会：コロナ対策を実施して今は元通り登山を実施。公共交通も利用している。コロナでアウトドアブームなのか、新入会員が毎月2～3人いる。新体育館がコロナであまり利用できていないのが残念。
- ⑤ 広島県庁山の会：県職員の手前、公けの山行が出来にくく「有志」や単独での山行が多かったが、今は月1回山行を実施。田中さんが東京に転勤になり寂しくはなったが。
- ⑥ マツダ親和会山岳部：連盟の会議でウェブ会議Zoomの採用をトライ中。自分のPC・スマホにZoomアプリを入れてもらえば、誰でも同じID・コードで参加可能。
- ⑦ 広島大学山の会：会としては活動中止、個人としては山行している。岳連例会山行も今年はできていないが、個人会員の「ありんこチーム」が発足した。
- ⑧ 高体連：コロナのためテント泊での山行が止められている。
- ⑨ 広島修道大学山岳部：個人的に登山を実施。十方山で熊棚を見た。会員が全国に散らばっているので個人的に山行している。大雪山旭岳には早くもスキーヤーがいた。
- ⑩ タンネンクラブ：旧来の会員が歳をとってほとんど山行できず、新メンバーを加えた。月1回日帰り登山を行っている。高体連のお手伝いがコロナ騒ぎで十分できず。
- ⑪ 日本山岳会広島支部：7月からコロナ対策を実施し登山を再開。ユースのサポート体制を作った。
- ⑫ 東広島山の会：9月から自家用車で実施、バスでの参考は中止。11月に大神ヶ岳の予定。若い人に

入ってほしい。新会員2名が登山教室に参加している。

- ⑬ 広島三峰会：今年28回を計画したが、コロナで3～6月は中止。7月から再開したが、泊まり込み山行は中止し、日帰りを月に2～3回。高齢者が多いので、里山や西国街道歩きを実施
- ⑭ 安藤縦走会：体制が変わったがコロナで6月からの再開となった。これまでに9～10回の山行を実施。
- ⑮ 個人会員：「ありんこチーム」に参加し、白滝黒滝などに行った。11/7～8に県民の森の登山道整備も実施予定。毎年全日本登山大会に参加しているが、千葉で2月に開催予定だった大会が後年に延期となった。（来年は苗場）

8. 岳連短信

1. 寄贈御礼

三原山の会『筆影』No.488（11月号）

福山山岳会『会報』R2.11月号

広島山岳会『山嶺』第863号（R2.10月）

広島山稜会『峠通信』第737号（2020.11月）

広島やまびこ会『やまびこ』No.774（12月）

2. 11～12月の岳連行事

12/6 県民ハイキング（宮島）

12/18 岳連忘年会（岳連事務所）

編集部より

○この会報は、皆さんの提出原稿を編集して発行しています。岳連行事・山の情報・行事参加の感想など気軽にお寄せください。寄稿の場合は所属、役職を記入下さい。編集の都合で一部手直しがあります。ご了承ください。

○会員団体で会報発行されたら岳連事務局まで恵送下さい。隨時紹介します。

○この会報はメール配信しています。配信ご希望の方は岳連事務局までメールアドレスをお知らせ下さい。